



学校法人 東京純心女子学園
Educational Corporation Tokyo Junshin Academy of Girls and Women

情報システムを脅かす大量スパムメールやDDoS攻撃を完全にブロック。セキュアなメール環境を実現した。

東京純心女子学園では他校に先駆け、1996年から学生と職員の全員にメールアカウントを発行し、積極的にIT化を推進している。情報セキュリティにも早くから取り組んできた同校であったが、2013年春、DDoS攻撃にさらされてメール機能は停止を余儀なくされた。

より堅固にセキュアなメールシステムを実現すべく、同校が導入したのがフォーティネットのFortiMail。外部からの攻撃に対してきわめて強力な防御機能を持っていること、短期間に導入が可能なこと、ユーザー数無制限の価格体系によるコストパフォーマンスの良さで即決採用となった。



学校法人 東京純心女子学園

住所：東京都八王子市滝山町2丁目600
設立：1963年

愛に根ざした真の知恵

Sapientia In Caritate Fundata

キリスト教(カトリック)に基づいた教育理念に則った女性の育成を教育の目的として1963年に設立された東京純心女子学園は、中学、高校、大学および教職員も含め約1,200人が緑の多い充実した教育環境の中で勉学に励んでいる。



法人事務局
財務課 IT担当主任
真島 満氏

POINT

- スパムメールやDDoS 攻撃など、外部からの攻撃に耐えるセキュアなメールシステムを短期間で構築でき、特別な知識が無くとも運用できるためIT担当者の負荷が大幅に軽減できた。
- ユーザー数に関わらずライセンス料が一定のため、今後ユーザー数が増加してもコストが抑えられる。

導入前の課題と背景

学生にも職員にも必須ツールとなったメール 教育機関にとってのメールセキュリティの重要性とは？

「学校法人東京純心女子学園は、東京都八王子市の緑豊かなキャンパスに、中学・高等学校、大学を運営しています。情報教育で中高生もインターネットに触れる機会がありますし、大学では各種連絡事項の通知などメールは必須の情報ツールとなっています。また、教職員にとってもメールなしで業務を行うのは困難です。当校では1996年より、中学1年生から大学4年生まで全員にメールアドレスを持たせるようになりました。常時約1,200ものアカウントが登録され、その20%程度は毎年入れ替わります。メールシステム導入当初は、今ほどセキュリティに対するリスクも高くなくファイアウォールもありませんでしたが、そうしたのんびりした状態は長くは続きませんでした」

導入の必然性

DDoS攻撃でより堅固なシステムの必要性を痛感

メールのセキュリティを強化させたのはなぜですか？

「1998年には、セキュリティの重要性を意識し始めました。プロキシタイプのファイアウォールの種類が少なかったこともあり、米社製のファイアウォールを導入。

その後、別のベンダーのファイアウォール製品に移行しましたが、メールサーバ機能が無いため、併せてMicrosoft社のExchange Serverを採用しメールサービスなどに使ってきました。この構成を見直すきっかけになったのが、2013年に受けたDDoS攻撃です。外部から大量の悪意ある同時アクセスを受けて、Exchange Serverが大きな被害に遭い、メールサービスのパフォーマンスが低下してしまいました。同時に、大量のスパムメールを受信してシステムがダウンするリスクもあり、早急な対策が望まれたため、展示会に足を運びいくつかの製品を比較検討していたところ、フォーティネットのFortiMailに出会ったのです」

運用の工夫

操作性とコストパフォーマンスを重視

FortiMailにほぼ即決だったそうですね。

「FortiMailの説明を聞き、機能を確認してほぼ即決で導入を決定しました。重要な決め手になったのがライセンス費用です。当校では、教職員はもちろん中学生から大学生まで全員にメールアカウントを発行しますが、たとえば中学生が実際にメールを利用する頻度は高くありません。他社製品の場合メール利用の有無を問わず、アカウント数に応じてライセンス費用が増加し、運営上大きな負担となります。FortiMailは全モデルユーザー数無制限

で、ユーザーの追加による料金は発生しません。当校のような教育機関に非常に適した価格プランと言えます」

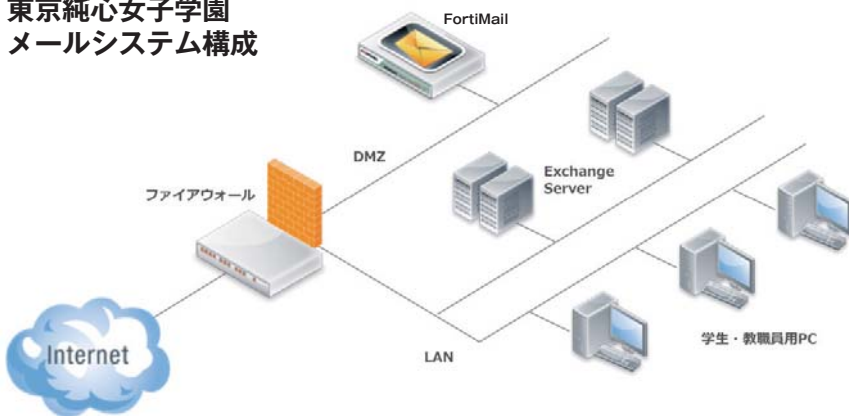
立上げや運用負荷についても考慮されましたか？

「システム立上げがスムーズであることや、設定の容易さは重要です。私はIT担当ですが、電気主任技術者の資格を持ち、情報システム関係以外に、学内の電気関連施設などの管理・運用にも携わっています。そのため、セキュリティシステムの導入だけに長時間を費やすことができません。実際の導入作業はフォーティネットのゴールドパートナーであるキャノンITソリューションズに依頼しましたが、2カ月もかからずに立ち上げてくれました。また、キャノンITソリューションズが開催するFortiMailのセミナーでセットアップから設定方法まで一通り経験でき、マニュアルも明快で設定作業が容易なことも大きなメリットだと感じました。当校のシステムはマルチベンダー環境ですから、特定の一社に全てを任せるわけにはいきません。ある程度、自分達で設定変更などの操作が可能であることが必要です。その点でもFortiMailには大変満足しています。セミナーで提供されたマニュアル1冊あれば、高度な知識が無くともほとんどの設定ができます。こんなに簡単でいいのかな、と正直思ったほどです」

取り組みの成果 学内からの送信メールも チェック 導入効果はいかがですか。

「当校の場合、入ってくるメールの約9割はスパムメールなので、その徹底的な排除は大きな課題です。以前は、海外製品では日本語のスパムメールが取りきれないだろう

東京純心女子学園 メールシステム構成



と考え国産製品を使っていたのですが、それでもスパムメールを排除しきれませんでした。そこで、FortiMailをその製品の上流側(インターネットにより近い位置)に入れたところ、ほとんどそこでスパムメールが排除されるようになりました。以前導入したその国産製品は事実上引退状態になっています」

発信時のセキュリティも重視されると伺いました。

「セキュリティに関する問題は、メールを導入した頃と今とは様変わりしています。SNSの利用が思わぬ問題を招いたり、内部からのデータ流出や、踏み台にされたケースも多く報道されています。当然、メール発信の際にもセキュリティに充分配慮する必要があります。ひとたび事故が起これば、ユーザーだけでなく、当校が長年かけて培った東京純心女子学園というブランドへの信頼をも揺るがせることになりかねません。セキュリティは、個々のユーザーへの教育と、本人の自覚が必要ですが、システム上でも十分な対策を講じることが大切です。たとえば他の製品の多くが、受信メールだけをチェックするのに対し、FortiMailでは受信、送信の双方向で行います。仮に学生が自宅で使っている

総合セキュアメールアプライアンス FortiMail

アンチスパム・アンチウイルスだけでなく、メールサーバやWebメール、送信フィルタリング、暗号化、アーカイブなどの機能を全て自社開発し、オールインワンで提供するメールアプライアンス「FortiMail」。セキュアなメールシステムの導入・運用コストを大幅に削減します。

PCがウイルスに感染したとします。自宅から学校のシステムにアクセスしてメールを使うと、学校から外へウイルスをばら撒くことになります。その点、FortiMailは送受信ともにしっかりとチェックしてくれるので大変心強いと感じています」

将来の展望 さらなるセキュリティ対策を 今後の取り組みについて お聞かせください。

「現在はFortiMailはゲートウェイモードで活用しており、機能をすべて使い切っておりませんので、さらなる活用を考えているところです。たとえばSMTPサーバーとしてのパフォーマンスが高いので、メールサーバとして使うことも検討中です。またメール暗号化機能でセキュリティをさらに強化したいと考えています」

FORTINET®
フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032
東京都港区六本木 7-18-18
住友不動産六本木通ビル 8階
www.fortinet.co.jp/contact

お問い合わせ